

まちづくりの会で出された意見等

1. 「鉾ヶ崎地区復興まちづくりの会」(9月30日開催)における意見

■皆さんからのご意見・ご提案

検討の進め方について	・避難場所として小中学校があるので、メンバーの中に学校関係者を入れてほしい。
復興まちづくりについて	・各まちづくり案について、それぞれの事業費や事業期間を示してほしい。 ・漁業施設や船揚場の復旧を早くしてほしい。

■主な意見交換の概要

検討の進め方について	Q：検討会はどのくらいのペースで行うのか。	➡	A：最低でも月に1回くらいのペースで実施することを想定しています。
	Q：私たちの意見を地区の代表の方に持って行っていただきたい。私たちが意見を言える方法はあるのか。	➡	A：検討会の検討内容は復興まちづくり便りで住民の皆さんに報告し意見募集に努めます。便りに添付する意見記入用紙を事務局に提出又は検討委員の方に直接お渡しになるなど意見をお寄せ下さい。
	Q：基本的なことは行政がリーダーシップを取るべきではないか。スピードが遅すぎる。	➡	A：スピードが遅すぎるという指摘はありますが、今後何十年にもわたるまちづくりの話であり、行政が一方的に案を示すより、住民の皆さんを中心とした検討会で検討していただくことが大事であると考えています。
	Q：現在、市では復興基本計画づくりの会議をしているが、この計画との関連はあるのか。	➡	A：復興基本計画を10月までに策定し、その後来年3月までに推進計画を策定します。これは各地区の復興まちづくり計画と並行して行います。
防潮堤等の施設について	Q：防潮堤の高さが海拔+10.4mでは、3.11の津波から逃げられないのではないのか。	➡	A：過去2番目の津波に対応する防潮堤を整備するというのが国の方針ですので、明治三陸津波を防ぐ高さとなっています。防潮堤だけではなく、避難路などを併せて検討する必要があります。
復興まちづくりについて	Q：漁業施設や港の船揚場の復旧についてはどう考えているのか。	➡	A：防潮堤の位置については、検討会で今後検討していきます。漁業施設等の復旧については、現在準備をしており、まもなく工事に入る予定です。
	Q：パターンごとに何年かかるか示してほしい。理想のパターンだが時間がかかるのでは待てない。	➡	A：工事期間については盛土量や宅地造成する場所など、もう少し詳しい検討材料が必要になります。今回は、検討会でのたたき台として提示しましたので、今後の具体的な検討が進んだ後に工事期間や事業費などをお示しします。
	Q：各案でどのくらいの費用になるのかを示してほしい。	➡	A：事業費については、もう少し詳細な検討が進んでからでないと算出することができません。
事業手法について	Q：集団移転をする際には、1戸でも反対すると成立しないのか。	➡	A：集団移転については、一定の規模の区域の方が、区域全体で移動する形になります。最低の戸数はありますが、集団で移転していただくことが基本になります。
	Q：建替えの支援金や補助制度はどうなるのか。	➡	A：まちづくりと家の再建はセットであり、制度内容の改正や補助期間の延長等を国でも検討しています。決まり次第、お知らせします。
浸水区域内の土地・建物について	Q：既に家を再建している人がいるが、どうなるのか。	➡	A：事業実施に伴い、支障となるようであれば、移転補償金をお支払いし、移転をお願いします。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

(1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入っておりますが、そのことについて、あなたの考えをお書きください。

嵩上げし元の場所に住みたいと思っていますが、可能であれば。 (60歳代 女性)

愛宕小学校が閉校となった時跡地を市民公園なりスポーツ施設としテニスコートなどを作り現在宮古一中は河川敷が使えず近くの公園コートを自分たちで作って練習しています。スポーツ施設、道の駅、買い物を楽しめる街、魚市場とつながり集客を見込めると思います、勿論津波の時は山に逃げる道もつくります。 (40歳代 女性)

鉾ヶ崎地区は裏の東側地区からも波が来て当地区の大半が壊滅したので先ず面前は裏側の西側は国道近くまで掘って地盤を平らに上積し、そこに今迄通り商店街を作るべきです、道路は広くて東側南側は事務所を建て、今の海岸道は高さ 3m程の防波堤と東側へ行く車道にすべきと思う。 (80歳代 男性)

県では、鉾ヶ崎、日立浜地区に防潮堤を作ることで決まったはずですが、何か無駄なことをしていませんか？ (匿名希望)

構成メンバーが自分の職種にこだわらず客観的に検討して欲しい。いろいろな意見を吸い上げて町づくりからこぼれる人が出ないように。 (50歳代 男性)

私達老夫婦は家を建てることは考えておりません、出来ません。高台（佐原付近）にでも公営住宅でも出来ればそちらを考えております。今までのようにご近所仲良く、笑い合えるよう老後を送りたいと思っています、皆さんで助け合いながら。夫は病院で透析を受けておりますのでその辺も考慮の上の考えです。 (70歳代 女性)

(2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

なあどの道の駅は、市民にとっても観光客にとっても重要な施設だと思います。ただ、前の場所は地盤沈下していることを考えても危険だと思います。是非空洞化してしまった愛宕地区をつくり、皆の交流地点にすることで寂しくなった中央通りと鎌ヶ崎をつなぐ活気あるルートになると思います。

宮古は、もともと浄土ヶ浜以外に観光客が来ても立ち寄る場所が市内に無かったので今なら出来る街づくりをした方がいいと思います。歩いて街を楽しめるような、市場もつながる街をうまく作って欲しい。 (40歳代 女性)

鎌ヶ崎地区を港町ならではの観光地にし、お土産売り場などの商業地域が好ましいと思います。そして、県、市などで買上げた土地をどの業種にも安価で貸付できるレンタル店舗を作り地域の活性化を図り、水揚げされた魚介類を内陸地方に当日中にお届けする新しい物流改革を行うことにより、宮古市PR、漁業の活性化が期待出来ると思います。 (30歳代 男性)

街造りは北側の山を削って2~3段にし、削った山砂をいれて町道をつくり早く建てさせます。そこを埋める土砂が少ない時は海の底や小学校裏から土砂を運んで埋める方法が良いと思う。また海側は2m位の防波堤とし住宅の下側の段と合わせれば5m程になるかもしれません。下段以下の下地は土砂で少し高くして平地とし、加工場等の建設地にします。これ以外の方法は無いと思います。なお東側の津波の来たところは防波堤を作ります、いずれも事後処理が遅れています。私なら3ヶ月後には取り組んでいます。何をしていますのですか。早急に願います。

(80歳代 男性)

5~6年前より鎌ヶ崎地区、日立浜地区に防潮堤を設置しようと働きかけて、昨年~今回初めて地盤調査も終わり設置の方向で進んでおりました、今回の震災で実証されたはずですが。それなのに何で同じことを繰り返すのですか。(復興パターンA~Dまでのこと)1番に防潮堤を作る。高台や市内に移転を考えるべきではないか。決断も必要では。

(匿名希望)

浸水地区毎の高台移転と平行して国道沿いに小都市的な機能を持つものを作る。

(50歳代 男性)

鎌ヶ崎は漁師の町です。また、浄土ヶ浜の現在の宿泊場はパークホテルのみです。今までは観光バスは鎌ヶ崎を後に何処に行くやら、バスの後をさみしく見送るありさまです、地元も漁師さん達の力を借り鎌ヶ崎ならではの食・住のお土産等々を良く考えぬいて鎌ヶ崎の地元にお金を置いて頂けるような方法を考えて頂きたくお願い致します。せつかくの観光地がかわいそうです。

(70歳代 女性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	3～5m程度の津波は頻繁に起きるので、防波堤を復旧してほしい。
		既設の防潮堤の嵩上げをする。盛り土をする（土地浸水した所）。
		岸壁かさ上げ、高潮対策。防潮堤を作り、残った家屋を保護してほしい。
		今後の防災と安全な地域の整備策として、より高さのある防波堤が必要と考えるが、防波堤、国道45号、鉄道を一緒にした構造物にできないかと考えます。
		早急に必要とする物は、次に来る津波への備えとして防潮堤の建設である。津波は明日にも来るかも知れない。
	河川	清水川をドブ川から真の清流に変える。或る程度の川幅が必要。
		清水川との合流点から、或る程度の遊水のできる川幅を確保する。
	国道等	宮城県と宮古までの道路を開通させ、もっと関東の人が来やすく、宮古にお金を落とすようにしてほしい。
		漁業と観光の町を目指すのなら、道路交通の整備に取り組み、物流をよくしなければならない。高速道路の早期着工を願う。
	県道、市道	銚ヶ崎地区はまず、公共が行う幅の広い道路（防潮堤の上部を通れるもの）を観光地浄土浜に向けて、また枝分かれする主要道路（避難路）防潮堤の整備。
		この際道路を整備し、震災に強い宮古市になってほしい。
		今まで不便に思っていた銚ヶ崎地区。特に蛸の浜の道路の整備をお願いします。広く、まっすぐになれば安全と漁業、観光の発展につながります。
		区画整理を行い、道路を広く、見通が良く、基盤状の配置にして周囲の状況がいち早く把握でき、車での避難が可能と成り老人も避難させる事ができるようにする。
	避難路	銚ヶ崎の区画整理を行いメイン道路を造る。蛸の浜の道路は津波の流れる道路として、普段は使用するが、津波の時は通行禁止とし、高台への避難道路を整備する。
		防波堤のハード整備に多額のお金をかけるよりも、避難ルートの確立やソフト面の地域防災力の強化に力を入れてほしい。
		1次避難場所から避難所に移動する道路、及び手段が確保されていない。県道はがれきでうまり、昔のけもの道の様な狭く急な道を移動せざるを得なかった。
		熊野神社のところにある避難道路が大活躍。避難所の小学校や熊野神社に避難している人たちの安否確認で利用。欲を言えばもう少し上の方まで出来ていればよかった。
		目の前に実存する縄文時代からの測候所に通じる山道（歩道）が有り、これを整備して津波防災路にしてもらえれば多くの人命が助かると思う。
	公共交通	J R山田線がいつ運行する予定なのか。ならびに目途がいつ頃進むのか。
	公共施設	かなり高齢なため自宅には戻りたいと思うけれど、生活するための買い物する所や病院が近くにないと戻れない。
公共施設(市役所、警察署)の移転、鉄道の復旧。		
宮古市庁舎、高等学校等の所在地、配置についてはよく検討し、県計画にも沿うようにすることが復興の早道と考えます。		
公営住宅	三世同居の家族を入れる公営住宅の建設をお願いしたい。低価格の建売住宅ができるようバックアップをしてもらいたい。	
	1～2階はコンクリート柱の駐車場にして3階以上で住居する公共住宅の建設	
	仮設ではなく、市営、県営でもいいので住宅を作ってほしい。	
	自力で自宅を再建できない高齢者や資金不足の人々にとって、仮設や民間借上げ住宅の期間後、住まいの確保は容易ではありません。早期に公営住宅の建設計画を。	
復興まちづくりについて	将来像	ここで生きてきた先輩に感謝し、現在生きている皆が未来の子供たちに負担のない世の中であってほしい。
		宮古＝漁業ではなく、他の産業も含めて総合的な基盤を造り上げる。
		災害に強い町づくりの再興と防災の町として全国に宮古を発信していく。
		風力・ソーラー発電に力を入れる。浄土ヶ浜・月山をリゾートにする。
		おもいきった計画を実行して今までとちがう宮古市を創ってほしい。
		銚ヶ崎の長所である気候のよさ、美しい自然、を生かすには唯一つの弱点津波の被害を無くす事である。
		適当な場所にエコタウンを作り、自然エネルギーを活用した、住宅団地を造る。海岸沿いの場所は地盤の嵩上げ等、防災重視エリアにすべきかと思う。

大分類	中分類	意見
復興まちづくりについて	漁港について	舟は自力で修理できるが、防波堤や舟揚場がないと、舟が置けない。
		宮古は漁業が基幹産業である。港や漁船を復興させるだけでなく造船所や漁協施設・水産加工施設まで含めた地域産業システムとして立て直していかなければならない。
		海に近い所は漁業関係と観光施設を整備して、活気のある豊かな町になってほしい。
		鍬ヶ崎地区の津波防災のための施設整備は、漁業基地としての港の利、活用面で重大な役割を担っている地域であるところから、海側整備を強く望みます。
	復興パターンについて	鍬ヶ崎に高台はなく、土盛をするしかないが、今度の津波を越えるような津波が来ても安心できるほどの高さの土盛ができるか不安。
		被災した土地を一旦買い上げて盛土をして区画整理し、防潮堤や避難道路を整備し、仕事場と住宅そして商店がバランス良く共存できる安全な街にしてほしい。
	防災対策	人口減少社会になることから、住宅提供においては、高層住宅を提供する中で住民の住宅確保をし、避難先はその屋上にするなど防災力の強化につながる施策を。
		高層マンションを建設し分譲する。その場合一階を店舗とし、上階に災害の避難に備える設備を設け、平常時はコミュニティセンターとして活用する。
		今回、高台に避難と言っても場所だけで施設がない、そんな場所では避難場所には向いていないので、考えてほしい。
		避難訓練は大人だけのものになりがちだが、地域にいる人たち全てを参加させる工夫が必要だ。今回の震災は人災でもある。人々の油断やスキがあったからだ。
		防災無線が聞こえない。家などはないが、下町のあたりにも街灯をつけてほしい。
		ハード（堤防など）の強化も大切だが、「揺れたら逃げる」のソフト強化も大切にし、行政には「ここからの住居は認めない」区域をお願いし大切な命を守る施策を求む。
		整備されたわかりやすい避難路と、防浪ビル、避難タワービルの検討。高台に避難場所も兼ねた公園を設け、歩いて逃げられるように整備する。
事業手法について	高台移転	津波が来ても防げるようにかさ上げなどしないと、帰って家を建てることは出来ません。高台移転など早急な方針を打ち出してほしいと思います。
		高台への移転となると、経済的負担が大きく公的補助がもう少し少ないものか。防波堤などの整備が早くされないとなおさら戻れない。
		住居は高台への移転。できるだけ住民同士のつながりと地域コミュニティを考慮した地域移転、集落移転。
		県立宮古病院に近いところに宅地（ニュータウン）を作してほしい。
	面的嵩上げ	鍬ヶ崎は土盛をするしかないと思いますが、今度の津波を越えるような津波が来ても安心できるほどの高さの土盛ができるか不安です。
		鍬ヶ崎は全体に地盤が低く底上げが必要。また、道路も狭く都市整備が必要。店舗、観光施設等兼用の高層マンションにより避難場所、道路の確保ができると思う。
	区画整理	鍬ヶ崎の区画整理を行い、メイン道路や高台への避難道路を整備する。
		鍬ヶ崎小学校の校庭と同じレベルで土盛をして区画整理をしてほしい。
	個別再建について	個人住宅の再建支援について、現状では再建したくても土地もお金も不足しており、義援金、支援金はどこにも足りない。
		高台移転はせず、資金を住宅や生活再建に集中させ住民が元に戻る事を優先させなければ経済もしぼんで行くと思う。
浸水区域内の土地・建物について	土地の利用	住宅地を震災前と同じ場所に求めるのは無謀。少なくともハード対策が完了しない間は認めるべきではない。各産業（水産、製造）施設の集合体として活用を計るべきだ。
		まず用地を確保しつつ、都市計画を進めるべき。法の網をかぶせても実施することが大切。
	売却	早急に安心して生活できる対策作りや規制の緩和、また建設してはいけないのなら自治体や国が土地を買い取るなど考えてほしい。
		現在の土地に家を建築できないのであれば、土地の買上げをするか、代替地を提供してほしい。